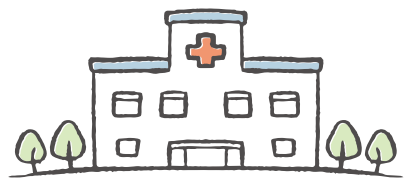




医師事務支援室の紹介

医師事務支援室 平木 恭子



【医師事務支援室とは】

あまり聞き慣れない部署だと思いますが、全国どこの病院にも設置されている部署です。病院によって「医師秘書室」や「医療クラーク室」等、いろいろな呼び方があります。

その名前から医師のための部署と思われるかもしれませんが、私たちの目的は「患者さんに提供する医療の質の向上」にあります。近年、医師の事務業務が膨大になり、医師が本来すべき診療に十分な時間をかけられないことが問題となってきました。そのため、医師の事務業務の負担を軽減する目的で、2008年から国の方針で「医師事務作業補助者」という名前の職種が誕生しました。当院では2009年から6人の職員で始まり、現在は35人が働いています。

私たちが医師の事務作業を手伝うことで医師が診療に専念し、ゆとりを持って患者さんに接して質の高い医療を提供できるように毎日努めています。

【仕事内容】

主な仕事は、診断書に代表される医療文書の代行作成や診療記録の代行入力です。「医師じゃない人が作って大丈夫？」と不安に思う方もおられるかもしれませんが、いろいろな研修を積んだ私たちが代行作成等を行い、最終的に医師が確認しますので安心してください。

【医師事務支援室のこれから】

2022年11月から、当院の「医師事務支援室」は国の基準※で最も充実した施設となりました。これからも、医療チームの一員として医療職をサポートし、患者さんのお役に立てるよう頑張ります。

※医師事務作業補助者の配置を評価して点数化したもので、規模の大きい病院にのみ導入

①当院は「医師事務作業補助体制加算1（15対1）」に該当

